新潟大学　遺伝子倫理審査委員会　オプトアウト書式

①研究課題名	婦人科悪性腫瘍の発がん・進展メカニズムの解明を目的とした遺伝子発現解析
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
対象者及び対象期間　2001 年以降，当院で手術を受けられ，婦人科良性・悪性腫瘍と診断された方，肉眼的に異常を認めず、悪性腫瘍でないことが確認された方のうち，以下の過去の研究課題にご同意いただいた方にお願い申し上げます。 ・婦人科悪性腫瘍の病態解明を目的とした遺伝子発現解析（遺伝子倫理審査承認番号　G2015-0665）研究責任者：榎本隆之 ・卵巣癌病態解明を目的とした遺伝子発現解析（遺伝子倫理審査承認番号571）研究責任者：田中憲一 ・子宮体癌発症と adiponectin 分泌異常の関連性に関する検討（遺伝子倫理審査承認番号433）研究責任者：田中憲一	
③概要	
近年，がんの発症・浸潤・転移には，がん組織中の一部のがん幹細胞が多大な役割を担っていると考えられています。卵巣がん・子宮体がん・子宮頸がんなどの婦人科悪性腫瘍においても，がん幹細胞の存在が明らかになってきております。今回の研究では，がん幹細胞およびその比較として正常幹細胞の遺伝情報を解析し，がん幹細胞の特徴的な遺伝子変化を見出し，がん幹細胞を対象とした新たな治療への発展を目指すことを目的としています。	
④申請番号	G2018-0006
⑤研究の目的・意義	卵巣がん・子宮頸がん・子宮体がん・膣がん・外陰がんなどの婦人科悪性腫瘍の発症・進行に関与するがん幹細胞における，特徴的な遺伝子変異を明らかにし，同細胞を対象とした新たな治療法の開発に貢献することを目的としています。
⑥研究期間	2018/7/18-2023/7/17
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	婦人科悪性腫瘍の発症・進行に寄与するがん幹細胞における，特徴的な遺伝子変異を明らかにし，同細胞を対象とした新たな治療法の開発に貢献することを目的としています。 採取された試料は，国立遺伝学研究所・国立がん研究センター研究所で RNA シークエンス解析及び全ゲノム解析を行います。匿名加工により特定の個人を識別することができないように加工した状態で共同研究機関と試料のやりとりを行います。 研究成果につきましては，公的データベースに登録させていただきます。国内外の多くの研究者がデータを利用することが可能になり，病気

	に苦しむ方々の診断や予防，治療等をより効果的に行うために役立つことが期待されます。
⑧利用または提供する情報の項目	遺伝子体細胞変異情報および臨床情報（癌腫、年齢、性別、癌の進行度 Stage、治療歴、治療効果、予後等）
⑨利用の範囲	新潟大学産婦人科　榎本隆之 国立がん研究センター研究所　岡本康司 国立遺伝学研究所　井之上逸郎
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	本院　医療情報部　部長　赤澤宏平 本院　産婦人科　科長　榎本隆之
⑪お問い合わせ先	産婦人科医局 石黒竜也 Tel：025-227-2320 E-mail　tishigur@med.niigata-u.ac.jp